

子どもをほめようほめよう

夏、真つ盛り。子ども達は夏休みを満喫しているところでしょうか。

いつもは学校や幼稚園に行っている子ども達が毎日家にいる生活は、母親にはかなりストレスになっていたりするものです。暑いだけでなく、疲れるのに子どもの相手、宿題の手伝い、そして騒がしく片付かない部屋など、ついついいら立ってたりしませんか。気がつくと毎日、大声をあげていたりして自己嫌悪に陥ってしまいますね。

そこで、この夏休みのお勧めが「子どもをほめよう、ほめてみよう」です。そう言われても、ほめることがないなんて思ってしまうかもしれません。ちょっと照れくさかったり、そんなことやって当たり前、できて当たり前と思ってしまう、

どうしても悪いことに目がいって叱ってばかりになりがちです。

しかし、ほめることは子どもを認めてあげることです。大好きな親に認められることで自分に自信を持つことができ、やる気も出てきます。もしかしたら、親が勇気を出してほめてあげたのに、うれしそうに喜ばないかもしれません。でも懲りずに何度か言ってみてください。内心うれしいのに最初は素直にうれしい顔ができないだけかもしれません。例えば自分のおもちゃを片付けていたら「片付け上手だね。偉いね」とすかさずほめてあげましょう。完璧にできていなくてもいいのです。まだ気になるところがあれば「こうするともっときれいになるね」と付け加えてあげれば

いいのです。

き

ちんとできた事だけがほめる対象ではなく、やろうとしたこと、やったことが「えらい」のです。そういうことならほめることは案外たくさんあるので

はないでしょうか。

もつと子どもが大きくなって、作文や絵で賞を取ったり、部活の試合で勝ったり、これらは親にとつて、とても誇らしいことですが、そういう時こそ「すごい！やったね！」の後に、何度も書き直したことを毎日練習したその努力をほめてあげてほしいと思います。たとえ結果が良くなかったとしても、その努力を認めてあげれば、またやる気が出てきます。

子どもと一緒にいる時間が長い今、何かほめることないかな・そんな目で子どもを見てみましょう。いつの間にか怒る回数が減っているのではないのでしょうか。子どもも、たとえ一日に一回でも毎日ほめられたらどうでしょうか。夏休みが終わる頃、きつと自信とやる気の芽を心に得ていることでしょう。

家庭教育指導員 加瀬

